

# あいち病害虫情報 最新情報

令和2年5月15日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## ムギ類の病害

5月上旬の調査で、赤かび病の発生は過去10年と比較して3番目に多くなっています。また、うどんこ病の発生も多い状況です。

名古屋地方气象台5月14日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は平年並か高い見込みです。降水量は平年並ですが、1週目（5月16日から22日）は気圧の谷や湿った空気の影響で雲が広がりやすく雨の降る日がある見込みです。

赤かび病の発病穂が目立つほ場では、第2次伝染を防ぐため、降雨後に早急に防除を行いましょう。なお、収穫時期が近付いていますので、収穫前日数に注意して薬剤を選定してください。薬剤等の詳細は5月1日発表の「ムギ類赤かび病情報第2号」を参照してください。

## 果樹の病害

果樹の病害の多くは、この時期、降雨のたびに病原菌が飛散し、感染を拡大していきます。降雨予想やほ場での発生状況に注意し、早めの防除を心がけましょう。

モモせん孔細菌病は、昨秋に発生が多く、台風の影響で風を伴う降雨があったため、病原菌の越冬量が多くなっていると推測します。本病は、枝病斑から出る病原細菌が、風を伴う降雨により周囲に広がり、感染が拡大します。昨年、発生が多かった場所を中心に注意深く観察し、枝病斑は見つけ次第除去しましょう。

ナシ黒星病は、葉が柔らかい時期や幼果期は感染しやすい時期です。発病葉や発病果は伝染源になるため、見つけ次第除去しましょう。また、多発してからでは、薬剤散布の効果が劣るので、早期防除を心がけましょう。

ブドウ黒とう病は、昨年発生量が多かったため、今作における越冬病原菌量は多いと思われます。本病は、梅雨明けまで降雨のたびに、発病部位や棚に残っている被害枝等から分生子が飛散し感染が拡大するため、防除を実施しましょう。シャインマスカットは巨峰と比べ本病に弱いので、特に防除を徹底しましょう。

ブドウ晩腐病は、開花直前から防除適期に入ります。適期を逃さないように防除を徹底しましょう。

## 果樹の害虫

果樹のカイガラムシ類の防除適期は第1世代1齢幼虫発生ピーク時です。今年の第1世代1齢幼虫発生ピークは昨年と同時期と予想します。ナシマルカイガラムシ及びフジコナカイガラムシ第1世代1齢幼虫の発生ピーク予測日は、本日発表の「ナシマルカイガラムシ情報第1号」及び「フジコナカイガラムシ情報第1号」を参照してください。

果樹を加害するカメムシ類の主要種であるチャバネアオカメムシが、予察灯及びフェロモントラップで誘殺され始めました。特に豊田（フェロモントラップ）や豊橋（予察灯）では5月に入って誘殺数が急増しています。気温が20℃以上の風がない夜は果樹カメムシ

類の行動が活発になり、果樹園へ飛来するおそれがあります。今後の予察灯やフェロモントラップでの誘殺状況を参考（下記ホームページを参照）にするとともに、ほ場を見回り、飛来を確認したら防除を実施しましょう。特に、越冬場所に近い山間部や例年被害が多い園では、飛来状況に注意しましょう。

チャノキイロアザミウマは、成虫発生ピーク時の農薬散布が最も防除効果が高いとされています。下表の成虫発生ピーク予測日を参考にして、適期に防除しましょう。防除薬剤については、令和2年5月1日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第1号」を参照してください。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（令和2年5月15日計算）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第1世代	5/23	5/21	5/18	5/18	5/22	5/22	5/18	5/19	5/22	5/19	6/14
（前年）	5/23	5/22	5/18	5/19	5/22	5/24	5/21	5/21	5/24	5/21	6/12
前年差	±0	1日早	±0	1日早	±0	2日早	3日早	2日早	2日早	2日早	2日遅
第2世代	6/18	6/20	6/14	6/13	6/19	6/19	6/15	6/16	6/19	6/17	7/12

注）アメダス平均気温から予測。5月14日までは本年実測値を、それ以降は平年値（大府、豊橋は前年値）を用いて計算。前年は、前年気温の実測値を用いて計算。

## キクの病害虫

露地ギクは定植時期に入っています。定植用苗は、白さび病などの感染がないものを用いましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
  - ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
  - ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
  - ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
  - ・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820